



JA兵庫みらい
営農経済部 あぐり創生課
TEL 0790-47-1282
FAX 0790-47-1674
2025. 6月号

園芸 【黒大豆のえだまめをつくろう】

・特徴
日当たりが良く排水の良い弱アルカリ性土壌の圃場を好みます。また、出来るだけ多くの実をつけるためには、土寄せと開花期以降の管理がポイントになります。

・畑の準備
出来るだけ何回も耕起して土を細かくしてください。
大豆は根粒菌により空気中の窒素分を吸収します。根粒菌は弱アルカリ性土壌と空気を好むので、種まきの二週間前に土作り資材（例：セルカ100g/m²、牛糞堆肥1kg/m²）、一週間前に元肥（例：果菜ゴールドン有機80~100g/m²）を施肥し、畝幅1~1.5mで畝立てを行います。ネキリムシの多い圃場では、【ダイアジノン5%粒剤】などを使用しましょう。

・種まき
黒大豆の特徴として種まきの時期とは関係なく開花（8月上中旬）が始まります。様々な考え方がありますが、近年の気候変動を考えると、6月中下旬頃が種まきの適期となります。株間30cm程度をあけて1条植えで栽培します。

【直播きの場合】
1か所につき1粒まき、覆土します。深いと発芽はしているのに土が重く土中で腐ることがあるので、覆土は2cm~3cmで十分です。また覆土の代わりにくん炭を使うのもお勧めです。

【苗移植の場合】
鳥害等が気になる方は、セルトレイ苗での栽培がおすすめです。

・補植
直播きの場合、欠株が出るので、あらかじめ補植苗を畝端等で用意し、補植しましょう。

・土寄せ（中耕培土）
除草、不定根発生による倒伏防止、空気を入れる事による根粒菌着生のために土寄せを7月上旬~7月25日頃を目安に2回行います。
一回目、土の乾いた早い段階で実施し初生葉の元まで土を寄せます。
二回目、第一本葉の根元までしっかりと寄せます。

・開花期以降の管理
【開花期に追肥 開花期以降の湛水】
たくさんの花がつき、肥料分が不足するので、追肥（例：野菜専用化成10g/m²）を行います。着果促進と肥大促進のために7月下旬から9月下旬まで、畝間灌水を流し水程度で行います。

【防除】
8月下旬（開花終期から莢の伸び始め）~10月中旬（子実の肥大期）にかけて、ハスモンヨトウ・カメムシ類・マメシンクイガの防除を行ってください。

・収穫
10月上旬になれば、えだまめで美味しく食べることができますので楽しみにして栽培してください。

水稲 【田植え後の除草剤について】

6月 水稲作業のポイント

倒伏防止や食味向上：施肥基準に応じた施肥量を施用し、多肥は控えましょう。
初中期一発除草剤を効果的に使う：初中期一発除草剤は、田の水面に溶出した成分が、土壌の表面に吸着され、均一な処理層を形成することで、雑草の幼苗が吸収し効果を発揮します。除草剤を効果的に使用するためには、①水持ち②水深5cm程度の確保③均平が必須条件です

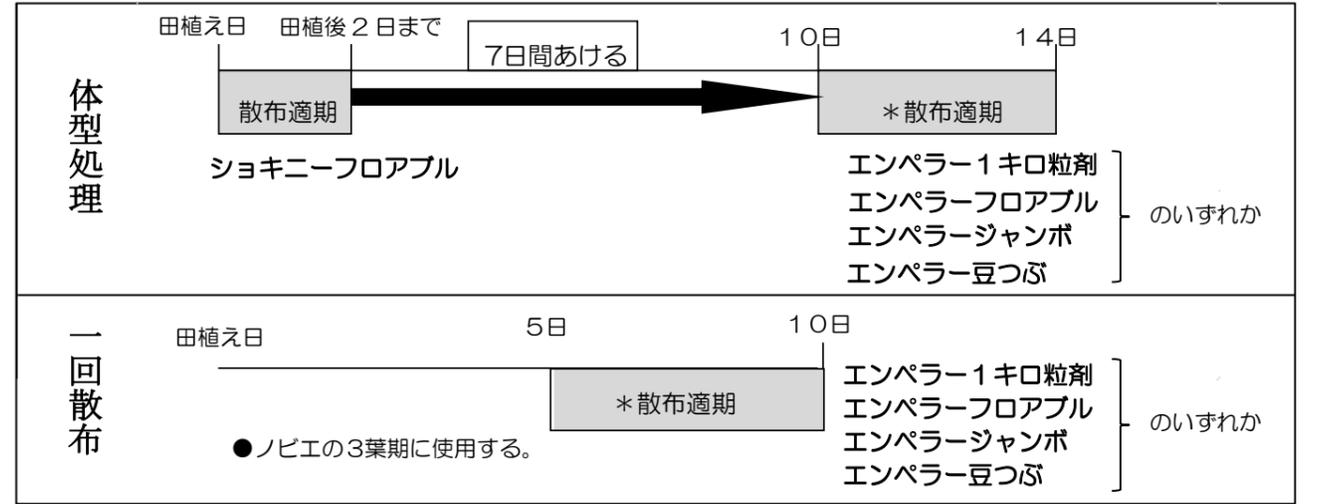


除草剤や箱施用剤など農薬の使用が集中するこの時期に、多くの田から農薬が流出すると、魚介類等の水環境への影響が大きくなる懸念があります。
また、**除草剤の効果安定の為に止水期間を設けることが重要です**。散布後、農薬成分が水田全体に拡散し、土壌に吸着される前に落水やかけ流しをすると効果が薄れる場合があります。



☆初中期一発除草剤
水田に適する除草剤を選んで、効果を高めましょう。
体系防除（2回）：水もちの悪いほ場、雑草が多いほ場、ホタルイやノビエなどの防除が困難な雑草が発生する場合に効果的で、ショキニーフロアブルと下記の除草剤の組み合わせをお勧めします。

【除草剤の散布ポイント】
★草の多い・少ないによって、体系処理か一発処理かを選択してください。
★晴天の持続する日を選び、水の出入りを止めて湛水状態（水深5cm程度）で田面に均一散布し、散布後3~4日は湛水状態を保ちましょう。また**散布後7日間**は、降雨があっても落水、かけ流しはしないでください。



【農業は身体が資本！“安全”に“健康”に作業を行いましょう！】

・田植え時期を迎え、農作業が大変忙しい時期になってきました。田植機やトラクターなどの大型機械や、草刈り機などの使用する機会が増えてきます。農作業事故等がないように適度に休憩を取って作業を行いましょう。また、6月に入ると気温も上がってきますので熱中症には気をつけて、水分補給と休憩を忘れずに作業を行いましょう。

問 い 合 わ せ 先

- | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 加西営農生活センター
TEL0790-47-1286 | 三木営農生活センター
TEL0794-82-6150 | 小野営農生活センター
TEL0794-63-6905 |
|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|

わたしたちは農業、くらしのパートナー。
元気な農業、元気なくらしを応援します。